

薩摩青雲丸

鹿兒島水産高校
薩摩青雲丸
第一次航海
指導教官

枕崎帰港迫る

充実の第一次航海 まもなく終了

六月二十三日横浜出港後は、鳴門海峡を経由して高松港に寄港しました。その後は、備讃瀬戸、来島海峡、関門海峡等の航路航行実習を、錨泊実習を挟みながら実施、二十九日に北九州の門司に入港しました。3日間停泊し明日七月二日午前十一時には最終寄港地となる名瀬に向けて出港します。

会社説明会

卒業後の進路選択の一助にしておくと、各寄港地に本社を置く船社を



人事担当者の話に真剣に耳を傾ける実習生達。生徒食堂

船内に招き、会社説明会を開催しています。横浜では海上作業船やタグボートを運航する「共栄マリン」、門司では海難救助船や各種海洋調査船等を運航する「洞海マリンシステムズ」と、セメント運搬船を運航する「アジアパシフィック

企業訪問

マリン」の人事担当者が本船を訪れました。

三崎港では、機関技術科の実習生が、漁業機器を専門に扱う丸石製作所を訪ねました。工場内で機器の整備工程を見学すると共に熟練技術者から技術指導を受けました。



職人の匠の技に見入る機関技術科の実習生。丸石製作所

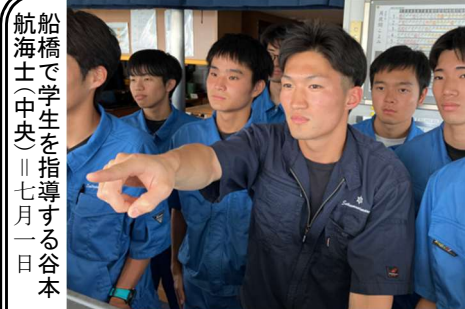
航海士・機関士を志す金の卵たち

船舶業界は、現在売り手市場。船員不足は深刻化しており、特に内航海運では、有効求人倍率が1.1倍と非常に高く、人手不足が顕著。とはいえ、潮流の変化を読み解く能力と他船との衝突を回避する高度な技術と判断力が求められる。機関士は船の生命線である主機の制御・保守・点検・整備の全てに精通していなければ務まらない。上級資格を保有し、専門的訓練を受けた専攻科生は、業界にとって「金の卵」と、人事担当者達は口を揃える。

ニューフェイス

新乗組員の紹介

谷本直人
(たにもとなおひと)



船橋で学生を指導する谷本航海士(中央) 七月一日

二等航海士▼年齢▼23歳▼趣味▼ご当地マダガスカル・御朱印集め・筋トレ
▼特技▼バドミントン・テニス▼経歴▼本校専攻科を修了後、内航船の航海士を経て現在に至る▼深夜まで学習する学生達を気遣い、そつと差し入れを置いていく優男▼年齢が近いこともあり、兄のような存在として実習生達から慕われている。

大島海峡操船

最後の寄港地となる奄美大島の大島海峡では実習生が自分達で航路計画を立案・作成し、船長役と



実際の大島海峡の海図を使用して船長から航路計画の方法を教わる実習生。生徒食堂

指導教官の目

高松港寄港時は、海の神様として名高い金刀比羅宮(こんぴらさん) 千三百六十八段に多くの実習生と乗組員が登り、残すところ数日となった航海の安全を祈願しました。枕崎帰港の際は、お忙しい中とは存じますが、生徒のお出迎えよろしくお願い致します。薩摩青雲丸新聞は本号をもって刊行を終了します。

機関室で燃料ポンプの保守点検をする機関技術科の実習生 六月二十四日

